

# お年寄りが多く、地域の担い手に苦しむ 住宅地の「まちづくり」

長野県高森町 吉田南検討会



例会では活発に意見が出ます

## 高齢者が多く、 自治会への加入が低い理由

高森町吉田南地区は、昭和40年代に宅地分譲が進み、多くの子育て世代が転入して人口が急増しました。しかし、子どもたちは進学や就職で地区を離れ、親世代も歳を重ねたことから、急速に少子・高齢化が進みました。また、分譲時に他地区からの転入世帯が多かったことから、自治会への加入率が低く、高齢化により脱会、地域の役の受け手に困るなど、課題が相次いで生まれてきました。

(吉田南地区286戸。高齢化率46・0%、自治会加入率56・5%。平成30年3月時点)

## 吉田南検討会とは

この会は、住民が日々の暮らしに不安を感じている中で、「地区の将来について考えたい」という声をきっかけに、平成30年に結成されました。会の特徴は、町や自治会が直接に関与しないことです。その中で将来に向けて自分たちで課題を見つけ、解決方法を考え、実行していく自主的な組織になっています。会員を公募したところ、13人の応募がありました。地域政策プランナーの高橋寛治さんをアドバイザーに迎え、月に1回、会員が集まって話し合う、例会を開いています。



## 前途多難

検討会には、地区の将来を見据え、良い地域にするための話し合いが期待されていました。しかし、具体的な課題である自治会役員の担い手不足や、同じく加入・未加入に対する思いを皆が抱えており、その見通しがつかなければ、活動は前に進みませんでした。会議はこの悩みを話し合う場になりましたが、会議が紛糾することもしばしば起きました。

でも、このことが、後に言いたいことを言い合える会の雰囲気づくりにつながりました。

## 話し合いをするが・・・

翌令和元年には、自治会の課題は会の手を離れて「吉田南地区」が担い、検討会では本



そば処みなみ庵。教え合いながらそばを打ちます

来の地域の将来と向き合うことになりました。この地区は転入世帯が多いため、人と人とのつながりを深める必要があるとの意見が多く出され、目指すことにしました。しかし、取り組みの話になると、農業が意見として出たとき、「農地はどう確保するのか、普段の管理をどうするのか」などと意見がまとまらず、行き詰まり、険悪な雰囲気もみられました。

## 転機

家に閉じこもりがちな高齢者が集まれる場所をつくるための話し合いの中で、会員から「そばでも打とう」と提案が生まれてきました。他の会員も賛同し、令和元年10月に「そば処みなみ庵」が実現しました。初めてのことはかりで苦労しながらも、計画・材料集め・チラシ作りなど、楽しんで準備をしました。

そば打ちは思い付きでの提案だったとのことですが、それまでの状況に変化が生まれ、会は明るく楽しい雰囲気に包まれました。

## 取り組みが自信に

会員が一つのことを企画し、実際に動き出したことが自信になり、2ヶ月後には2回目の「そば処みなみ庵」を開催。活動の様子を伝える広報紙「吉田河原版」を作り、地区内



慰労会。自分の飲み物・食べ物を持ち寄ります



南カフェ。人と人をつなぐ機会になりました

に配布もしました。もっと多くの人が気軽に集まれる機会を作りたいと願い、続いて愛称「南カフェ」を2回開きました。多くの人が集まり、笑顔のひとときを過ごせました。

活動の広がり

南カフェでは、公民館に所属している会員から、この取り組みは公民館活動に通じるから「協力したい」との申し出があり、共同開催となりました。この共催により検討会の活動は地区内全域に広がりを見せ始めます。

その後、新型コロナウイルスの影響で南カフェや例会が思うように行えない中、令和3



囲碁ボール。笑顔があふれます

年6月には、コロナ禍でも開催できる催しとして、囲碁ボール大会を実施。子どもたちが参加して、楽しく汗を流しました。

活動は話し合いで決める

検討会の活動はすべて、会員が例会の中で話し合っただけです。年齢や立場は様々ですが、会の中では全て平等です。意見がぶつかりまともにならずとも、まった時間はかかって、話し合いを重ねて合意をしてきました。

その結果、資金の確保、課題や活動の反省点に対して、改善する力が付いてきました。

変化と成果

活動の始まった頃は、何か意見が出ると、「現場はこの問題をどう考えているか」「解決してほしい」と町に頼る場面が多くありました。でも活動を重ねることが自信になり、「地区の課題には自分たちで向き合う」と考えが変わってきました。今では、「役場や自治会は、活動する際にサポートする関係になっています。」

また、活動への参加対象も変わってきました



検討会を知ってもらうために広報紙を作成しました

た。当初は自治会加入者のみを対象としてきましたが、活動の中で、地域の元気には住民同士のつながりが大切との意識が広がりました。南カフェ以降では、会員が未加入世帯に1軒ずつチラシを配り、新しい参加者がありました。

今後に向けて

現在は検討会の会員が様々な企画をしています。現在は検討会の会員が様々な企画をしています。ですが、いずれは参加者自身に運営を委ねることを考えています。自分から活動することで、意識は変わると思っています。吉田南検討会の活動を通じて、安心して暮らす想いを持つ人の輪を大きくしたいと願っています。

(吉田南検討会 会長 市沢佳子)